

◆ 実戦問題 22 ◆

*その春、*世の中いみじうさがしうて、*松里の渡りの月影あはれに見し
 (1) 乳母も、三月ついたりなくなりぬ。せむかたなく思ひ嘆くに、物語のゆかしさ
 も覚えぬなりぬ。いみじく泣き暮らして、見出だしたれば、夕日のいとはなやかに
 さしたるに、桜の花残りなく散り乱る。

散る花もまた来む春は*見もやせむ*やがて別れし人ぞ恋しき

また聞けば、*侍従の大納言の御むすめ、なくなりたまひぬなり。*殿の中將
 の思し嘆く^{おほ}なるさま、^②わがものの悲しきを^⑥なれば、いみじくあはれなりと
 聞く。*上り着きたりし時、これを手本にせよとて、この姫君の御^③手をとらせたりしを。
 *夜ふけてねざめざりせば^①など書きて、「*鳥辺山谷に煙の燃え立たば*はかなく見えしわれと知らなむ」と、いひ知らずをかしげに、めでたく書きたまへるを見て、^④いとど涙を添へまざる。

専修大(法)

出題文

【出典】
『更級日記』

『更級日記』は、p90参照。

*その春〓作者が上総の国(現在の千葉県の中央部)から上京した年の春。

*世の中いみじうさがしうて〓世の中がたいそう騒然として。この年疫病が流行して、多数の死者が出た。

*松里の渡りの月影あはれに見し乳母〓松里の渡し場で月の光をしみじみと見た乳母。作者の乳母は旅の途中の「松里」で出産し、別に上京することになった。作者は泣く泣く乳母と別れたという記述がこの前の部分にある。

*見もやせむ〓見ることもあるだろう。

*やがて〓そのまま。松里で別れたままの意。

*侍従の大納言〓藤原行成。そ

設問

問1

傍線Xについて説明した次の文の、空欄にあてはまる言葉を記せ。

この「ぬ」は、四段活用 of 助動詞の連用形の「たまひ」についているので、完了の助動詞の ① 形である。つまり、「なり」は ② 形についているので、この助動詞「なり」の意味は ③ ということになる。

問2

傍線④の文法的説明として最も適当なものを、次の中からそれぞれ一つずつ選べ。

① 動詞

② 断定の助動詞

③ 伝聞推定の助動詞

④ 形容動詞の活用語尾

問3

傍線(1)「乳母」と同一人物を指す語句を五文字以内で抜き出せ。

問4

傍線(2)「わがものの悲しきを」とあるが、その原因を五文字以内の現代語で記せ。

問5

傍線(3)「手」の意味を記せ。

問6

傍線(4)のようになったのはなぜか。最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

- ① 乳母が亡くなり、また侍従の大納言の姫君も亡くなったと聞いたから。
- ② 侍従の大納言の姫君が亡くなり、殿の中將が嘆いていると聞いたから。
- ③ 侍従の大納言の姫君が亡くなったが、死を予感させるような和歌があったから。
- ④ 歌の内容が寂しいものである上に、すばらしい文字を書く人だと知ったから。

の「御むすめ」は、道長の子

ども藤原長家と結婚していた。

*殿の中將〓藤原長家。

*上り着きたりし時〓作者が上総の国から上京した時。

*夜ふけてねざめざりせば〓『拾遺和歌集』の中にある壬生忠見の歌の上の句。

*鳥辺山……〓『拾遺和歌集』

にある詠み人知らずの歌。鳥辺山は京都の東山にあった火葬場。

*はかなく見えしわれと知らなむ〓日ごろ弱々しく見えた私を葬る煙だと知ってほしい。

単語チェック

〓ゆかしさ ㊦

〓やがて ㊦

〓いみじ ㊦ シク

〓いとど ㊦